

2021・6・6【俳壇賞2021 プランB 全?句】 選27句

蒸気ならぬくときものを春霞

裏返る高翼単葉機の大蛾

お屋敷の門の内なる落葉搔

鞆はまだ半径の支配下に

茗荷の子名札荷ひて忘れ難し

落葉搔くやうな遊んでゐるやうな

潮干狩食つてやるぞと掻き出せり

月の夜の銀新しき奥歯かな

落葉籠押せば落葉の押し返す

亀鳴けば甲羅に羽根の生えるやも

お屋敷の大きな扉月今宵

蝶舞ふや終着駅を折り返す

水銀に憧れてゐる天の川

草食を肉食が食ふ花吹雪

枝ゆれて鴟の頭の動かざる

火の山を鎮めし湖の涼しさよ

見世物の如くに鴟の贅動く

火山の上に百万トンの水涼し

見世物の如くに動く鴟の贅

夕立や茄子に胡瓜に雑草に

看板の如くに動く鴟の贅

六万トンの鉄の倒立夏の海

贗物の如くに鴟の贅動く

手花火の母も老女となり給ふ

白粉花に前輪駆動三輪車

蟻を食ふところは見せず蟻地獄

落葉うづたかし小鬼のかくれんぼ

火の山に湖を鎮めしけり

1

17行3段組14ポ 2021年9月9日 11:23 へ1 桐9

N  
1/12

2021・9・11【俳壇賞2021B 全148句】 選13句

2

鞆はまだ半径の支配下に

初刷のずつしり重き平和かな

特急は一日二本花の駅

草食を肉食が食ふ花吹雪

車も下 9.12

火日湖の百万トンの水涼し

六万トンの鉄の倒立夏の海

手花火の母も老女となり給ふ

裏返る高翼単葉機の大蛾

生涯を棒の如くに秋の暮

水銀に憧れてゐる天の川

名にし負ふ平和球場広島忌

白粉花に前輪駆動三輪車

花嫁はデュシヤンと共に冬籠

~~邪の字に邪の  
邪ありにせよ  
9.16~~

~~9.14 大仏の草中  
北代乙ならん  
9.16~~

2021・9・16【俳壇賞2021B 全161句】選14句

3

~~鞦韆はまだ半径の支配下に~~

風邪の字に邪悪の邪あり案ずべし

銘

~~亀鳴くや甲羅の内の鏡張り~~

~~花嫁はデユシヤンと共に冬籠~~

ひとほどに朝こたべに

特急は一日二本花の駅

火口湖の百万トンの水涼し

~~大仏の背中に窓や星涼し~~

肉食が草食を食ふ炎天下

~~六万トンの鉄の倒立夏の海~~

~~裏返る高翼単葉機の大蛾~~

~~水銀に憧れてゐる天の川~~

七夕や坊主頭の子が二人

月よりも水面に近し月見舟

~~白粉花に前輪駆動三輪車~~

あなごめす

2021・9・18 【俳壇賞2021B 全179句】 選10句

4

~~潮干狩食つてやるぞと掻き出せり~~

~~特急は朝夕にのみ花の駅~~

~~火口湖の百万トンの水涼し~~

肉食が草食を食ふ炎天下

~~手花火の母も老女となりしかな~~

~~秋晴や架線いらずのディーゼル車~~

七夕や坊主頭の子が二人

~~月よりも水面に近し月見舟~~

~~見世物の如くに揺るる鴟の贅~~

つくづくと風邪に邪の字のあることを

夕立の雨にちと 9.23

大暑れ

切株玉粒の車粒

海ノ霧

西日にて太平洋に 9.25

鳥かぐつ 9.

末梢にけむり 9.25

西日がな

長き夜の入口がきん 9.25

あまのこ

平俗にや 9.25

二日の流

傘をさし 9.25

秋晴れ

切株の上の 9.25

葉のま

砂糖水砂糖が解けてや 9.25

2021.9.25 【俳壇賞2021B 全250句】 選15句

5

特急は朝夕にのみ花の駅 木枯の行列にほふラーメン屋



なれそめの十五十六螢の夜 つくづくと風邪に邪の字のあることを

芋虫

肉食が草食を食ふ炎天下 ~~平~~俗はすなはち平和二日の夜

西日して太平洋に島いくつ

夜濯のボタンを押せば水の音

夜濯の排水孔の自転かな

七夕や坊主頭の子が二人



秋晴や架線いらすのディーゼル車 <sup>の糸路は仲ひて架線なし</sup> 9.25

澄む水の石をのみこむ水輪かな

澄む水の深きところを夜といふ

天の川うつす大きな水たまり

春は雲丹秋は毬栗とげとげの

針山 9.26

表へ3

2021.9.26 【俳壇賞2021B 全255句】 選14句

臨川亭

6

特急は朝夕にのみ花の駅 木枯のラーメン店の列長し

肉食が草食を食ふ炎天下 つくづくと風邪に邪の字のあることを

西日して太平洋に島いくつ

夜濯のボタンを押せば水の音

夜濯の排水孔の自転かな

七夕や坊主頭の子が二人

秋晴の架線不要の線路かな

澄む水の石をのみこむ水輪かな

澄む水の深きところを夜といふ

天の川うつす大きな水たまり

火の色は時に血の色曼珠沙華

春は雲丹秋は毬栗針の山

白

ラーメン

オリケ

非電化区間の鉄路

天

にこむ夜

にえかむむ

花の水

長

2021・9・26【俳壇賞2021B 全273句】 選14句

7

特急の臨時停車も花の駅 木枯にラーメンを待つ列進め

肉食が草食を狩る炎天下 つくづくと風邪に邪の字のあることを

西日して太平洋に島いくつ

夜濯のボタンを押せば水の音

夜濯の排水口の自転かな

七夕や坊主頭の子が二人

非電化区間なりけり天高し

澄む水の石をのみこむ水輪かな

澄む水の深きところに夜の水

天の川うつす大きな水たまり

火の色は時に血の色曼珠沙華

春は雲丹秋は毬栗針長し

2021・6・26【俳壇賞2021B 全292句】 選20句

8

特急の臨時停車も花の駅 に花がうき

肉食が草食を狩る炎天下

西日して太平洋に島いくつ

夜濯のボタンを押せば水の音 夏の南の風の面白かな

夜濯の排水口の自転かな

七夕や坊主頭の子が二人

非電化区間なりけり天高し

澄む水の石をのみこむ水輪かな

澄む水の深きところに夜の水

天の川うつす大きな水たまり 夏

秋の夜の小学校の椅子机 日本橋

火の色は時に血の色曼珠沙華 日本に曼珠沙華ありし

春は雲丹秋は毬栗針長し

切株の断面まるき小春かな 小春日和

木枯は誰の弔合戦か そかりいひかれ今宵、夜は

木枯の東京タワー背伸びせよ 老の体 本体の

木枯やポディーの横の給油口 地風、もろり

木枯にラーメンを待つ列進め すすり

遠火事の遠木枯に燃え上がる キ

つくづくと風邪に邪の字のあることを

季節の幼向巨注視 中  
 遠夜の中 大  
 紅い 入  
 子 行

雪 ふ  
 雪 ふ  
 雪 ふ

かき ま  
 納 ま  
 も ろ



2021・6・27【俳壇賞2021B 全317句】選23句

9

17行3段組14ボ 2021年9月27日 09:28 へ1 桐9

~~本人の語るに落ちし春の風邪~~ 天の川うつす大きな水たまり

特急の臨時停車に花吹雪 長き夜の小学校の椅子机

春の旅車体の横の給油口 <sup>ケイケツヤ</sup> 日本各地に空襲ありし曼珠沙華 <sup>まき</sup>

肉食が草食を狩る炎天下 <sup>ほろろ</sup> 春は雲丹秋は毬栗針長し

西日して太平洋に島いくつ 切株の断面小春日和かな <sup>わんて</sup>

夜濯のボタンを押せば水の音 かき混ぜて納豆うまし虎落笛 <sup>濁る、わんて</sup>

夜濯の排水口の自転かな 虎落笛夜は弔合戦か

七夕や坊主頭の子が二人 ラーメンを待つ列進め雪催 <sup>かき</sup>

非電化区間なりけり天高し 遠火事や遠木枯に燃え上がる <sup>さくさく</sup>

澄む水の石をのみこむ水輪かな つくづくと風邪に邪の字のあることを

澄む水の深きところに夜の水 鋼鉄の東京タワー去年今年 <sup>まよって</sup>

~~質に入れる女房もなし秋の暮~~ <sup>サマシク</sup>

~~女房の髪もなしく~~ <sup>セツに</sup>

(記述誤り 杜氏化)

2021.6.27【俳壇賞2021B】全341句 選21句

10

特急の臨時停車に花吹雪 春は雲丹秋は毬栗針長し

啓蟄や車体の横の給油口 日本各地に空襲ありき曼珠沙華

肉食が草食屠る炎天下 切株の丸くて小春日和かな

西日して太平洋に島いくつ かき混ぜて納豆こはし虎落笛

夜灌のボタンを押せば水の音 虎落笛夜は弔合戦か

夜灌の排水口の自転かな ラーメンを待つ列進めいよよ雪

七夕や坊主頭の子が二人 遠火事や遠木枯に燃え上がる

非電化区間なりけり天高し つくづくと風邪に邪の字のあることを

澄む水の石をのみこむ水輪かな 天を衝く東京タワーー去年今年

受け出せし女房の焼く秋刀魚かな

天の川うつす大きな水たまり

長き夜の小学校の椅子机

Handwritten annotations in red ink including:   
 - 虎落笛 (Toryakuhachi)   
 - 夜灌 (Yokan)   
 - 草食 (Koushi)   
 - 肉食 (Nikushi)   
 - 西日 (Seiji)   
 - 太平洋 (Taishuu)   
 - 島 (Shima)   
 - かき混ぜ (Kakimae)   
 - 納豆 (Natto)   
 - こはし (Kohashi)   
 - 虎落笛 (Toryakuhachi)   
 - 夜 (Yoru)   
 - 弔合戦 (Tsuhegassen)   
 - ラーメン (Ramen)   
 - 待つ (Matsu)   
 - 列進め (Retsumae)   
 - いよよ (Iyoyo)   
 - 雪 (Yuki)   
 - 七夕 (Tanabata)   
 - 坊主頭 (Hakushu)   
 - 二人 (Ninonin)   
 - 遠火事 (Toonaka)   
 - 遠木枯 (Toonaka)   
 - 燃え上がる (Moenagaru)   
 - つくづく (Tsukuzuku)   
 - 風邪 (Kaze)   
 - 邪 (Yamai)   
 - 字 (Ji)   
 - ある (Aru)   
 - こと (Koto)   
 - を (Wo)   
 - 衝く (Ugoku)   
 - 東京 (Tokyo)   
 - タワー (Tower)   
 - 去年 (Konen)   
 - 今年 (Konnenshi)   
 - 受け出せ (Ukidesse)   
 - 女房 (Nyoubon)   
 - 焼く (Yaku)   
 - 秋刀魚 (Ahi)   
 - かな (kana)   
 - 天の川 (Amanogawa)   
 - うつす (Utsusu)   
 - 大きな (Ooi)   
 - 水 (Mizu)   
 - たまり (Tamaru)   
 - 長き (Nagai)   
 - 夜 (Yoru)   
 - の (no)   
 - 小学校 (Shoukoukou)   
 - の (no)   
 - 椅子 (Ishi)   
 - 机 (Bench)

2021・6・27【俳壇賞2021B 全360句】 選24句

(11)

特急の臨時停車に花吹雪 長き夜の小学校の椅子机

啓蟄や車体の横の給油口 春は雲丹秋は毬栗針長し

屠らるる象やキリンや炎天下 日本各地に空襲ありき曼珠沙華

西日して太平洋に島いくつ 曼珠沙華たやすく悪に染まりけり

夜濯のボタンを押せば水の音 切株の丸くて小春日和かな

夜濯の排水口の自転かな かき混ぜて納豆ねばる虎落笛

七夕や坊主頭の子が二人 虎落笛 夜は弔合戦か

非電化区間なりけり天高し ラーメンを待つ列進め初時雨

澄む水の石をのみこむ水輪かな 木枯の見て見ぬ振りの出来ぬ火事

霧雨や連絡船の着く港 先々の雪に置かれし旅靴

受け出せし女房の焼く秋刀魚かな つくづくと風邪に邪の字のあることを

天の川うつす大きな水たまり 天を衝く東京タワー 去年今年

子供

↓ 折れやを

↓ 丸い村まきうな

木枯のここは手まり

行く先々の 雪の上の音に手かれ

スウウウーかそと衝く

2021.9.28 俳壇賞2021B 全386句 選27句

12

特急の臨時停車に花吹雪 子規の忌の糸瓜・鶏頭・柿の鐘

啓蟄や車体の横の給油口 受け出せし女房の焼く秋刀魚かな

炎天下象やキリンの屠らるる 長き夜の小学校の椅子机

打水のけふは祭の漢にも 春は雲丹秋は毬栗針長し

西日して太平洋に島いくつ 化けて出て喰ひ付きさうな曼珠沙華

夜濯のボタンを押せば水の音 曼珠沙華たやすく悪に染まりけり

夜濯の排水口の自転かな 切株の丸くて小春日和かな

七夕や坊主頭の子が二人 ラーメンを待つ列進め初時雨

天の川うつす大きな水たまり 木枯に丸く吹かるるガスタンク

非電化区間なりけり天高し かき混ぜて納豆ねばる虎落笛

澄む水の石をのみこむ水輪かな 虎落笛夜は弔合戦か

霧雨や連絡船の着く港 木枯のこぞり集る火事場かな

幾度も雪に置かれし旅靴

つくづくと風邪に邪の字のあることを

去年今年スカイツリーの天を衝く

去るの日に

行く春や

昔梅雨の船子つらじに

まてりけり

行く春と徒木らつしと夜きもせず

木枯の「集まる」の

やんやわかん

見たりまじ

長り断る

春のや公団花の  
かまゆ  
9.28

排水口の(高)水やまて

つひに9.28

おひき  
男もまに9.28

たせきやま9.28

トッポ  
トッポ

で  
つ

る

△

おの取子神(人の肌を)に

2021・6・28 【俳壇賞2021B 全417句】 選30句

13

17行3段組14ポ 2021年9月28日 16:25 へ1 桐9

麗かに蝶よ花よと遊びをる 天の川うつす大きな水たまり

特急の臨時停車に花吹雪 非電化区間なりけり天高し

春昼や公園横のガスタンク 澄む水の石をのみこむ水輪かな

啓蟄や車体の横の給油口 霧雨の連絡船の着く港

△春の夜の積木くづしを飽きもせず 子規の忌の糸瓜・鶏頭・柿の鐘

青梅雨の稲まつすぐに立てりけり 受け出せし女房の焼く秋刀魚かな

炎天下つひにキリンの屠らるる 長き夜の小学校の椅子机

打水のけふは神輿の男らに 春は雲丹秋は毬栗針長し

西日して太平洋に島いくつ 化けてでて喰ひつきさうな曼珠沙華

夜濯のボタンを押せば水の音 曼珠沙華たやすく悪に染まるなり

夜濯の排水の渦消ゆるまで 切株の丸くて小春日和かな

七夕や坊主頭の子が二人 ラーメンを待つ列進め初時雨

かき混ぜて納豆ねばる虎落笛

虎落笛夜は甲合戦か

木枯の一番乗りの火事場なり

幾度も雪に置かるる旅靴

つくづくと風邪に邪の字のあることを

△歌留多取る神・髪・紙を散らしては

飛ばしては

カクタ取了

春に強りつく 9.29

神の旅

(厚句歌) 松坂歌

2021.9.29 【俳壇賞2021B 全429句】 選〇句 30

麗かに蝶よ花よと遊びをる 非電化区間なりけり天高し

特急の臨時停車に花吹雪 澄む水の石をのみこむ水輪かな

春昼や公園もあるガスタンク 霧雨の連絡船の着く港

青梅雨の稲まつすぐに立てりけり 子規の忌の糸瓜・鶏頭・柿の鐘

炎天下つひにキリンの倒さるる 受け出せし女房の焼く秋刀魚かな

打水のけふは神輿の男らに 長き夜の小学校の椅子机

西日して太平洋に島いくつ 春は雲丹秋は毬栗針長し

夜濯のポタンを押せば水の音 白粉花に前輪駆動三輪車

夜濯の排水の渦消ゆるまで 曼珠沙華たやすく悪に染まるなり

七夕や坊主頭の子が二人 ばけてでて顔に貼りつく曼珠沙華

天の川うつす大きな水たまり 切株の丸くて小春日和かな

つくつくとつくつく法師名乗るなり ラーメンを待つ列進め初時雨

かき混ぜて納豆ねばる虎落笛

虎落笛激す弔合戦か

木枯の一番乗りの火事場なり

いくたびも雪に置かれし旅靴

つくづくと風邪に邪の字のあることを

姫を飛ばし坊主を叩き歌留多取る

夜濯の水の排水の渦消ゆるまで 浴をいって 吸はれやうく 最後の水の吸はれやう

吸はれやうく えてなし 9.29

曼珠沙華 エイロマン

トキハの 季節の秋いえ 打はる道 tw. notes 2021.9.29

細部 一物 L好

2021・6・29【俳壇賞2021B 全437句】 選30句

15

麗かに蝶よ花よと遊びをる 非電化区間なりけり天高し

かき混ぜて納豆ねばる虎落笛

特急の臨時停車に花吹雪 澄む水の石をのみこむ水輪かな

虎落笛激す弔合戦か

春昼や公園もあるガスタンク 霧雨の連絡船の着く港

木枯の一番乗りの火事場なり

青梅雨の稲まつすぐに立てりけり 子規の忌の糸瓜・鶏頭・柿の鐘

いくたびも雪に置かれし旅靴

炎天下つひにキリンの倒さるる 受け出せし女房の焼く秋刀魚かな

つくづくと風邪に邪の字のあることを

打水のけふは神輿の男らに 長き夜の小学校の椅子机

姫を飛ばし坊主を叩き歌留多取る

西日して太平洋に島いくつ 春は雲丹秋は毬栗針長し

姫を飛ばし坊主を叩き歌留多取る

夜濯のポタンを押せば水の音 白粉花に前輪駆動三輪車

姫を飛ばし坊主を叩き歌留多取る

夜濯の最後の水の吸はれ消ゆ 曼珠沙華たやすく悪に染まるなり

姫を飛ばし坊主を叩き歌留多取る

七夕や坊主頭の子が二人 化けてでて顔に貼りつく曼珠沙華

姫を飛ばし坊主を叩き歌留多取る

天の川うつす大きな水たまり 切株の丸くて小春日和かな

姫を飛ばし坊主を叩き歌留多取る

つくづくとつくづく法師名乗るなり ラーメンを待つ列進め初時雨

姫を飛ばし坊主を叩き歌留多取る

Handwritten notes in red ink:   
 かな/漢字 文と教   
 フロアバージョン note   
 さんざんリスト take Saan   
 かな/推故教   
 姫を飛ばし坊主を叩き歌留多取る   
 9-30

2021・9・30【俳壇賞2021B 全442句】 選30句

16

17行3段組14が 2021年9月30日 11:21 へ1 桐9

麗かに蝶よ花よと遊びをる 非電化区間なりけり天高し かき混ぜて納豆ねばる虎落笛

特急の臨時停車に花吹雪 澄む水の石をのみこむ水輪かな 虎落笛激す弔合戦か

春昼や公園もあるガスタンク 霧雨の連絡船の着く港 木枯の一番乗りの火事場なり

青梅雨の稲まつすぐに立てりけり 子規の忌の糸瓜・鶏頭・柿の鐘 いくたびも雪に置かれし旅靴

炎天下つひにキリンの倒さるる 受け出せし女房の焼く秋刀魚かな つくづくと風邪に邪の字のあることを

打水のけふは神輿の男らに 長き夜の小学校の椅子机 一堂に姫や坊主や歌留多会

西日して太平洋に島いくつ 春は雲丹秋は毬栗針長し

夜濯のボタンを押せば水の音 白粉花に前輪駆動三輪車

夜濯の最後の水の吸はれ消ゆ 曼珠沙華たやすく悪に染まるなり

七夕や坊主頭の子が二人 化けてでて顔に貼りつく曼珠沙華

天の川うつす大きな水たまり 切株の丸くて小春日和かな

つくつくとつくつく法師名乗るなり ラーメンを待つ列すすめ夕しぐれ

いざや〜  
虎落笛  
激す弔合戦か  
木枯の一番乗りの火事場なり  
いくたびも雪に置かれし旅靴

を

たぐり今宵

て

の  
は



2021・9・30【俳壇賞2021B 全447句】 選30句

17

麗かに蝶よ花よと遊びをる

非電化区間なりけり天高し

かき混ぜて納豆ねばる虎落笛

特急の臨時停車に花吹雪

澄む水の石をのみこむ水輪かな

虎落笛いざや弔合戦へ

春昼や公園もあるガスタンク

霧雨の連絡船の着く港

木枯の一番乗りの火事場なり

青梅雨の稲まつすぐに立てりけり

子規の忌の糸瓜・鶏頭・柿の鐘

いくたびも雪に置かれし旅鞆

炎天下つひにキリンの倒さるる

受け出せし女房の焼く秋刀魚かな

つくづくと風邪に邪の字のあることを

打水をけふは神輿の男らに

長き夜の小学校の椅子机

一堂に姫や坊主や歌留多会

西日して太平洋に島いくつ

春は雲丹秋は毬栗針長し

夜濯のボタンを押せば水の音

白粉花に前輪駆動三輪車

夜濯の最後の水の吸はれ消ゆ

曼珠沙華たやすく悪に染まるなり

七夕や坊主頭の子が二人

化けてでて顔に貼りつく曼珠沙華

天の川うつす大きな水たまり

切株の丸くて小春日和かな

つくつくとつくつく法師名乗るなり

ラーメンを待つ列すすめ夕しぐれ